

## 後悔尺度日本語版作成の試み

○ 上市秀雄<sup>1</sup>・楠見 孝<sup>2</sup>( <sup>1</sup>筑波大学大学院システム情報工学研究科・<sup>2</sup>京都大学大学院教育学研究科)

キーワード：後悔，感情，個人差

## Development of a Japanese Version of a Regret Scale

Hideo UEICHI<sup>1</sup> and Takashi KUSUMI<sup>2</sup>( <sup>1</sup>Graduate School of Systems and Information Engineering, University of Tsukuba, <sup>2</sup>Graduate School of Education, Kyoto University)

Key words: regret, emotion, individual differences

## 目的

後悔とは、得られた結果が自分の予想と悪い意味で異なったときに感じるネガティブな感情である。その後悔は様々な場面で生じ、そして場合によってはその後悔がずっと心に残ることもある。もちろん合理化等で対処も可能（上市・楠見，2004）であるが、自分が後悔する傾向が高いかどうかを知っておくことによって、よりよい意思決定ができる可能性がある。よって本研究では、Washburn (2005) が作成した後悔尺度の日本語版を作成し、その尺度の信頼性と妥当性について検討した。

## 方法

**質問項目** 後悔尺度日本語版 Washburn (2005) が作成した 20 項目を、日本語に翻訳した（表 1 参照）。そしてそれら項目を 5 段階で評定（1: あてはまらない～5: あてはまる）させた。

**後悔度** 後悔を感じる状況を、対人状況 or 一般状況、action 状況 or inaction 状況の 2 次元、4 状況に分類した。そして各状況において、後悔度を 4 項目 5 段階で評定させた。

**調査対象者** 首都圏の大学生 140 名（男性 64 名、女性 74 名、不明 2 名）。質問冊子を 2009 年 11 月に質問紙を配布回収した。

## 結果と考察

**信頼性** 後悔尺度日本語版の各項目について、G-P 分析（4 分位パーセンタイルの第 1 パーセンタイルと第 4 パーセンタイルとを  $t$  検定）をおこなった。その結果、全ての項目で有意だった。さらに各項目の内の一貫性を調べるために、20 項目の  $\alpha$  係数を求めた。その結果、 $\alpha$  係数は .764 であった。よってこの後悔尺度の信頼性は高いものと考えられる（表 1）。

**妥当性** 後悔尺度合計得点と、4 つの後悔状況における 4 つ

の後悔度項目との相関を調べた。その結果、各状況において有意な相関が認められた（表 2 に有意だった項目のみ示す）。

よって後悔尺度日本語版は信頼性と妥当性の高い尺度といえる。

## 引用文献

Washburn, D. A. (2005). Regret proneness, change aversion, and risk aversion. Poster presented at the *Annual Meeting of the Society for Judgment and Decision Making*, Toronto, Canada.  
 上市秀雄・楠見孝 (2004). 後悔の時間的変化と対処方法: 意思決定スタイルと行動選択との関連性. *心理学研究*, 74(6), 487-495.

本研究は、平成 21 年度科研費補助金(19530553) 基盤(C)の助成を受けた。

表 2 後悔尺度合計得点と各状況の後悔度下位項目の相関係数  
各状況の後悔度下位項目 後悔尺度合計

各状況の後悔度下位項目	後悔尺度合計
対人-inaction 状況（友人 X との約束を破った）	
A1 遊園地に行っておけばよかったと思う	.232 **
A2 行っていたら Xさんと楽しく遊べたかも	.171 *
A3 約束を破ったことに対して後悔を感じる	.307 **
対人-action 状況（飲み会で友人 X の秘密を暴露した）	
B1 話さなければ Xさんも嫌な思いをしなかった	.183 *
B2 秘密を話してしまったことを後悔している	.171 *
一般-inaction 状況（ゴミ出しの分別を注意された）	
C1 分別表を手元に置いておけばよかった	.224 **
C2 分別しておけば注意を受けなかったのに	.200 *
一般-action 状況（対向車とすれ違う時に標識にぶつめた）	
D1 普段と同じ道を通っていればよかった	.289 **
D2 停止してすれ違っておけばよかった	.208 *

(\* $p < .05$ , \*\* $p < .01$ ,  $N=140$ )

表 1 後悔尺度日本語版の各項目の平均値と標準偏差（(-)は反転項目。得点は反転させていない）

後悔尺度日本語版の各項目 ( $\alpha = .764$ )	平均値	標準偏差
01 高価な買い物（たとえば車、電気製品）をした後は、自分がよい買い物をしたかどうか判断するために、いつも他のお店の価格を調べる	2.82	1.363
02 重要な決定をする時は、苦しい思いをする	3.60	1.061
03 もっと良い選択をすれば時間や努力やお金を節約できたということがわかると、そのことが気になってしまう	3.86	1.055
04 学校でよい成績をおさめたり、または職場で昇進しても、もっとよい成績や昇進だったらよかったのにと考えて残念に思ってしまう	2.84	1.156
05 自分が安い買い物（衣服や他の商品）をしたと思っている限りは、他の人が自分と同じものをより安く買ったことがわかって悔しいとは思わない(-)	3.05	1.188
06 物事を決めた後、後悔する傾向がある	3.40	1.133
07 “もしかすると、こうなっていたかもしれないのに”と思うことがある	4.01	.928
08 重要な決定をするときは、第一印象や直観にしたがって決める(-)	3.28	1.057
09 本当に欲しいものを買って損ねると、がっかりする	4.24	.788
10 重大な決定に伴う責任をいとわない(-)	3.20	.902
11 後悔することは時間の無駄だと思う(-)	2.92	1.123
12 過去の選択をどうこう考えるよりも、今のチャンスをつかむことに重点を置いている(-)	3.38	1.069
13 日常的な決定であったとしても、手に入る全ての情報を知っておきたいと思う	3.67	.946
14 他の人が物事を決めるのに時間がかかると、いらいらする	3.43	1.146
15 間違った選択をするリスクを冒すくらいなら、決定しないほうがよいと思う	2.98	1.115
16 ベストを尽くしている限り、自分の決定の結果がどのようなものになろうとも気にしない(-)	2.88	1.147
17 もし人生の途中で他の選択をしていたとしたら、自分の人生がどれくらい良くなっていただろうと考える	3.64	1.139
18 ひとつひとつの決定をするときにベストを尽くしたうえで、次に進むことが重要だと思う	3.88	.867
19 自分が逃したチャンスをいまだに悔やんでいる	3.28	1.212
20 まちがった決定をしてもくよくよしない(-)	2.66	1.211